

学べる症状シリーズ Vol. 6

腰椎横突起骨折

腰椎横突起骨折は3年前に初めて相談を受けた症状ですが、少ないながらも毎年相談が寄せられる注意が必要な症状です。今回はこの骨折と骨折全般の注意点をご紹介します。

腰椎横突起骨折は一般的には階段から落ちたときやスポーツ中の激しい接触により腰部に直接強い衝撃が加わることで発症します。本会がお聞きする施術中の事故で共通しているのは、うつ伏せの状態でも施術しているときに起こり、パキッと大きな乾いた音がすることです。この骨折は肋骨骨折と同様にコルセット等を使用したうえで安静にすることで数週間程度で痛みが消えます。肋骨骨折と異なる点として骨癒合のプロセスが停止し、骨が付かないケースが挙げられます。この状態を偽関節といいます。偽関節になったとしても痛みさえ消えていけば問題にはなりません。

しかし、中には寝起きや入浴や着替えといった日常基本動作での痛みがなくなり、「後遺障害が残った」と主張される利用者もいます。このケースでは、請求金額が1千万円を超える裁判もあります。利用者の主張を弁護士だけでなく医師の協力を仰ぎながら対応すべきものとなります。本会会員であれば費用面の心配はないものの、他の症例と比べると裁判は長期に及びます。

腰椎横突起骨折と同様にここ2～3年で相談を受けるようになった症状に「肋骨の骨折による入院」があります。複数の肋骨を骨折した場合は肺を傷つける恐れがあるため医師が「入院が必要」と判断するケースが数多くあります。このような傷病を負う多くの利用者に共通する点は、いわゆる強揉みを希望していることです。「忙しくてなかなか利用できず施術間隔があいたから」「いつもより症状が辛いから」という利用者の声に施術者として応える必要はありますが、両刃の剣となりにかねないものであることを忘れてはいけません。



腰だけに限らず骨折の疑いがある利用者に対しては、触診検査等によってその恐れが低いと思われる場合でも、本会では病院での画像診断を依頼する習慣づけをお勧めします。骨折していないことが確認された後に症状にあった施術を行えば問題ありませんし、後になって病院に行ってみたら骨折していた等といった誤診をなくすることができます。特に手指の誤診については大きな請求に繋がる恐れが高いので一層の注意が必要だと考えます。

☆本会ではさまざまな施術事故の症状に対しても状況に合わせたアドバイスを行っております☆

ONE POINT

ちょっとした説明や対応で未然に防げるクレームは数多くあります
この機会に店舗でのオペレーションを見直してみてもいかがでしょうか。

JHA NEWS

・施術トラブル / クレーム 対応無料電話相談・JHANEWSの発行・会員保障制度など
ご希望の会員には病気やケガで働けない時の支えとして所得補償保険を提供しています（別途保険料が必要）

国家資格者
会員種別
正会員A 準会員

すべての治療家、施術家に
安心・安全を提供します

入会金無料

民間施術者
会員種別
正会員B

【ご不明な点・詳細につきましては、お気軽にお問い合わせ下さい】



一般社団法人 日本治療協会

Japan Healing Association

URL: <http://www.jha-shugi.jp> E-mail: info@jha-shugi.jp

© JHANEWSのバックナンバーはホームページでご覧いただけます©

TEL: 03 (5289) 8171

FAX: 03 (5289) 8173

受付: 10:00 ~ 18:00 (平日)

受付: 24時間年中無休

本部 〒101-0041 東京都千代田区神田須田町 1-8
事務局 〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町 2-1